

●一人 / 二人世帯の一般化、働く女性の増加、人口減と高齢者増。こんな社会構造の変化は、食品・飲料パッケージの＜小容量化＞を促しますね。 ●20年前の2000年、ガラスびん入りの日本酒の容量別内訳は、「1.8Lびん 60%、720mlびん 10%、その他容量 30%」だったそうです。20年たった2020年、ガラスびん入りの日本酒は「1.8Lびん 30%強、720mlびん 30%強、その他容量 30%」となっています。「1.8Lが減って720mlが増加」、つまり「1.8Lの＜小容量化＞である720ml」が主流になりつつあります。 ●さらに20年後はどうなるの？ 一人当たり飲酒量の減少なども考えると、さらに小容量化が進んで、「720mlの＜小容量化＞である500ml」が主流容量の一つになるのでは...、という事で、今回は「500mlの観察」です。 (text & pictures = Sienna K. Emiri)



500ml Saké, Saké-like items & Shochu

500ml Whisky



500ml Gin & Spirits



500ml Wine & Cider, Still & Sparkling



500ml Beer & RTD



500ml Seasonings & Beverages



実物を撮影した写真と、ネットやカタログなどから取り込んだ画像で構成しています。